

論文名 Title	保育学生における伝承折り紙の認知度 －学生の実況調査を基にして－	Recognition of the tradition origami in the childcare student -Based on Student's Current Situation Survey.-
著者 Author(s)	梨本竜子	Ryuko Nashimoto
受理年月日 Date of acceptance	2017/06/06	
掲載 First publish	『折り紙の科学』（"Science of Origami"）2017/07/31 Vol. 6 No. 1 page 4-11	
備考 Note		

日本折紙学会
Japan Origami Academic Society
www.origami.jp

保育学生における伝承折り紙の認知度

—学生の現状調査を基にして—

梨本 竜子

新潟青陵大学短期大学部 幼児教育学科

〒951-8121 新潟県新潟市中央区水道町1丁目 5939 番地

nashimoto@n-seiryu.ac.jp

Recognition of the tradition origami in the childcare student -Based on Student's Current Situation Survey.-

Ryuko Nashimoto

Department of Preschool Education Niigata Seiryu University Junior College

1-5939, Suidocho, Chuo-ku, Niigata-city, Niigata, 951-8121 JAPAN

要旨：保育の場では、保育者が幼児に折り紙を伝える場面が多くあるにもかかわらず、保育学生には入学前に折り紙を折る経験が不足していると考えられる。筆者はこれまでアンケート調査等により保育者養成における折り紙指導の現状について調べてきた。今回は学生の伝承作品の認知度を調査することにより、養成校での折り紙指導のあり方について考える一助としたい。
キーワード：折り紙、保育者、大学生

Abstract : Though there are a lot of situations from which a nurture person introduces folding paper to an infant at a place by the nurture, I can think the experience which folds a folding paper before entrance is lacking for a nurture student. A writer has checked it about the current state of the folding paper guidance in a nurture person education school by questionnaire surveys up to now. I'd like to make it the some help considered about the state of the folding paper guidance at an education school this time by investigating the awareness of the student's folklore work.

Key Words : Origami(paper folding). preschool teacher. college student

1. はじめに

日本に生まれ育った者のほとんどが、一生のうちどこかで折り紙作品を見たこと、また実際に折ったことがあるであろう。では、折り紙をいつ教わったか、折ったかと聞かれて、一番多いのは幼児期、幼稚園や保育所においてという答えではないだろうか。

折り紙は、我が国の幼児教育の初めから保育内容に取り入れられてきた。明治9年、日本初の幼児教育施設である東京女子師範学校附属幼稚園が設立された際には、ドイツのフレーベルの保育法が中心であった。その教具である「恩物」のひとつ「手技」として導入されたヨーロッパにおける伝承折り紙 Falten と、日本にそれまであった伝承折り紙とが融合し、現在に至るまで幼児教育、保育の中で日常的に行われている遊び、活動である。

明治より以前から、我が国では子どもの遊びとしてだけではなく、男女を問わず成人、老人

に至るまで広く「紙を折る」ことに親しんできた。しかし、子どもの遊びの多様化や生活様式の変化に伴い、現代では保育の場以外での折り紙は、一部の成人や子どもの趣味、遊びに留まり、一般的には減少してきていると思われる。

筆者は現在、大学短期大学部の保育者養成課程に勤務しているが、幼稚園教諭・保育士を志望する学生も、幼児期以降に折り紙遊びをした経験があまりなく、保育者養成校に入学してあらためて折り紙に触れることになる者が多数いることを、以前の調査により把握している。本来折り紙は、人からの伝達指導を伴って伝えられてきた文化である。私は、文化の伝承といった意味からも、保育者となる者はその養成課程において自らが折り紙を折ることを経験し、子どもへの指導法を学んでおく必要があるのではないかと考えている。

これまで大森（2010）らの研究により、幼児教育における折り紙の教育的価値については明らかにされている。しかし、保育者養成校において具体的にどの程度折り紙を指導しているのか、またどのように指導すべきかについて言及したものは数少ない。本研究では、学生の伝承折り紙の認知度に関する調査を基に、保育者養成課程における折り紙教育の方法について考察することを目的とする。

2. 現代の学生の折り紙遊びの経験

筆者が以前現任校の保育学生を対象に行った調査によれば、子どもの頃折り紙で遊んだ記憶の有無について、「ある」と答えた学生が 95.3%であった。女子学生が対象のうち多数を占める調査ではあるが、折り紙は現在も子どもの遊びとして多く行われているといえる。但し、遊んだ時期については幼児期が圧倒的に多く、次いで小学校低学年であり、それ以降になると数が激減する。折り紙は幼児期から児童前期の遊びとして定着していることが確認された。しかし、それ以降全く折らなかった訳ではなく、3 割程度は中学校以降でも折ったとしている。中学以降では自発的な遊びとしてではなく、修学旅行で持って行く（戦没者慰霊）ためや部活動（必勝祈願）のため、入院した友達（傷病の回復祈願）のために「千羽鶴」を折ったとする回答が多かった。高校の家庭科や保育技術検定等で課題として折ったとする回答もあった。

また、折り紙を誰から教わったかでは、保育者やその他の「先生」とする回答が 1 位だったが、2 位は 3 位の「母」よりも「自分で本を見て」が多かったのである。このことにより、保育の場以外での折り紙は人の「手から手へ伝える」という遊び文化から、「本を見て折る」ものへとシフトしてきていることがうかがわれる。

3. 保育者養成と折り紙

田中（1991）は 1960 年代から長年に渡って保育者養成に折り紙を導入してきた。田中は、折り紙で幼児に育てられる力として、精神的な面で「意欲、喜び、集中力」の 3 つをあげている。また、「造形感覚としての美、造形的試行としての想像する力、造形的技術としての作る力、行動する力」等があるとしている。子どもが折り紙を体得することは、「物を作り出す喜び、折る楽しさ、製作への努力の喜び」などの精神的収穫が多々あるとし、手先の運動神経の発達する幼児期に適切な指導をすべきであると述べている。田中は、「折り紙は模倣に過ぎないため価値がない」とする見方に対して、そもそも言葉は模倣から始まるものであると指摘し、幼児期は模倣によって成長する時期であることから、模倣の教育的重要性を強調している。

幼児の折り紙指導にあたって必要で大切なことは「保育者が折り紙を大好きになること」と

「保育者が子どもと共に折り紙で遊ぶこと」であるとし、保育者が折り紙を好きになることが、幼児の意欲を湧き立たせ、上達させるための最高の条件であるとしている。

田中らは、保育者養成課程において学生に体系的に折り紙指導をすることを提唱している。田中は調査により、保育者にはより多くの折り紙を折れるようになりたいとの願望があるとし、保育者に折り紙を体系的に指導することによって、効率的に多数の折り紙を折ることが可能になるとしている。そして、学生時代に保育者養成校で体系的に折り紙の指導を受けることで、実際に保育者となった際に幼児に自信をもって指導することができ、望ましい保育の場での折り紙指導の確立もできるとしているのである。田中は、養成校の限られた授業時間数の中で学生が主体的に楽しく、偏らずに基礎・基本の折り方の法則性を学び、理解させる指導方法として、伝承折り紙を系統的に分類し、易しいものから難しいものへと体系化した長野耕平発案の「循環基本形」を推奨している。

4. 入学生の伝承折り紙の認知度についての調査

4.1 背景

循環基本形は伝承折り紙を系統的に分類することから成っており、基本形が伝承折り紙につながっていることを知るためにも、伝承折り紙について知ることは必要であると考え。また、前述したように、保育者には文化伝承の担い手としての役割もある。そこで、最低限覚えるべき作品として、基本形の含まれる伝承作品 6 つを学生に習得させることを提案する。授業の中で学生には、伝承作品をそのまま折るだけでなく、その基本形を活かした幼児向けの簡単なアレンジ作品を紹介していくことが望ましい。6 作品の習得であれば無理なくでき、基本形から効率的に折り手順を覚え、作品のレパートリーを増やすことにもつながると考えられる。

日本折紙協会のテキストには 12 の基本形が掲載されており、基本形ごとに伝承、創作の作品が分類されている。12 の基本形は、①肩かけ基本形（三角折り）、②折り本基本形（四角折り）、③たこの基本形、④魚の基本形、⑤菱形の基本形、⑥かんのん基本形、⑦ざぶとん基本形、⑧二そう舟基本形、⑨正方基本形、⑩風船基本形、⑪鶴の基本形、⑫かえるの基本形である。これらの基本形は一連に繋がっており、①または②からそれぞれ発展していく。基本形に名前が含まれる伝承作品は魚（鯉）、二そう舟、風船、鶴であるが、それらを折ることにより、含まれる基本形が習得できる。⑫は難易度が高く、幼児向けの作品にはほとんど使用されない。⑦を含む伝承作品の代表は、やっこさんであろう。これに肩掛け基本形から正方基本形とは別に発展するかぶとを加えた 6 つの伝承作品を習得することで、基本形の理解が出来る考えた。

この案に基づいて、基本形を含む伝承折り紙の習得を目指すにあたり、現状の入学生は伝承折り紙をどの程度知っており、また折ることができるのかを知る必要があると考えた。その上であらためて各伝承折り紙を体系的に指導する方法を探るべきと考えたのである。

4.2 方法

2016 年 12 月に、保育学生（短期大学部の 2 年生）127 名を対象に質問紙法に基づきアンケート調査を行った（回答数 127、回収率 100%）。

質問項目は、①代表的な 6 種類の伝承作品について、入学前から知っていたか、またそれを折り図を見ずに折ることができたか、さらには卒業前の 2 年次後期にそれらがどう変わったか、（伝承作品は名称と共に完成図を示した）②他に折り図を見ずに折れる作品はあるか、③実習における折り紙の必要性等に関する考え他（自由記述）、である。

取り上げた伝承作品と含まれる基本形は、鶴（正方基本形、鶴の基本形）、風船（折り本基本形、風船基本形）、奴さん（ざぶとん基本形）、かぶと（肩かけ基本形）、鯉（たこの基本形、魚の基本形）、二そう舟（かんのん基本形、二そう舟基本形）である。基本形は日本折紙協会による名称を使用する。

学生は、1年次前期に「表現（造形）指導法Ⅰ」の授業内で毎回各10～15分程、幼児向けの簡単な遊べる折り紙作品を中心に15回の折る経験をしている。6つの伝承作品をそのまま折ることは授業内ではしていない。また、1年次夏休みには実習指導の課題として、折り紙を自由に50種類を折ることに取り組んだ。

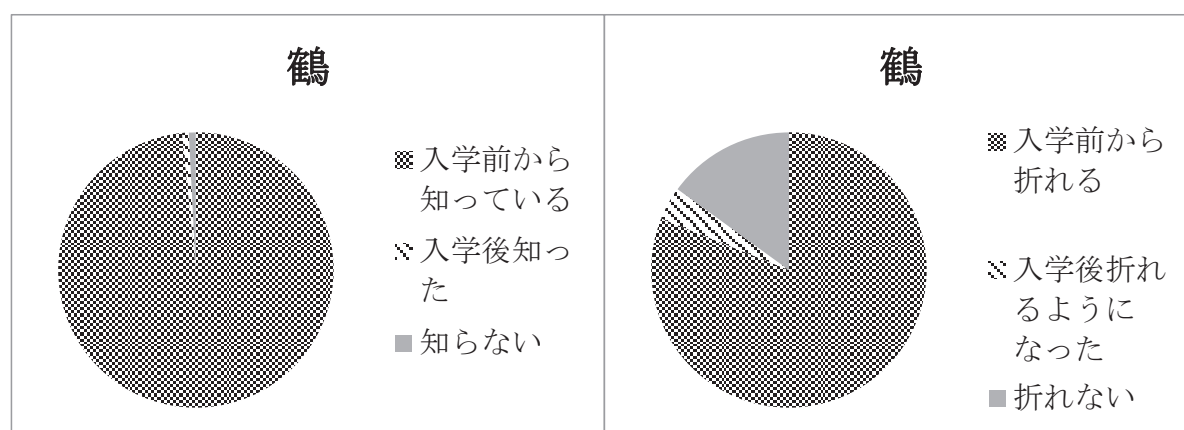
4.3 結果

結果は次の表の通りである。

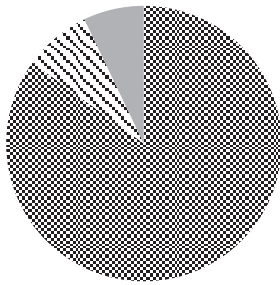
① 伝承作品の認知度

伝承作品名	知らない	知っている		図を見ず折れる	
		入学前から	入学後	入学前から	入学後
鶴	1 (0.8%)	125 (98.4%)	1 (0.8%)	103 (81.1%)	5 (3.9%)
風船	9 (7.1%)	108 (85.0%)	10 (7.9%)	42 (33.1%)	29 (22.8%)
やつこさん	19 (15.0%)	101 (79.5%)	6 (4.7%)	52 (40.9%)	20 (15.7%)
かぶと	4 (3.1%)	113 (89.0%)	10 (7.9%)	36 (28.3%)	22 (17.3%)
鯉	64 (50.4%)	27 (21.2%)	35 (27.6%)	10 (7.9%)	26 (20.5%)
二そう舟（またはだまし舟）	29 (22.8%)	58 (45.6%)	38 (29.9%)	20 (15.7%)	30 (23.6%)

未回答欄有

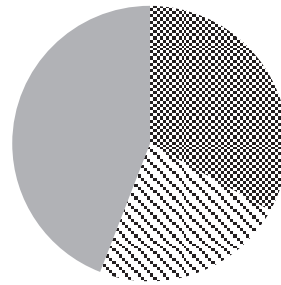


ふうせん



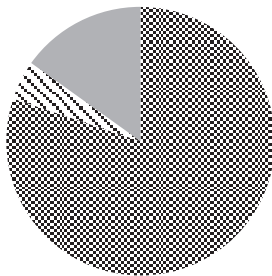
- ※ 入学前から知っている
- ※ 入学後知った
- 知らない

ふうせん



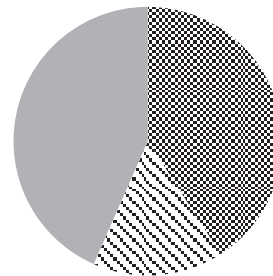
- ※ 入学前から折れる
- ※ 入学後折れるようになった
- 折れない

やっこさん



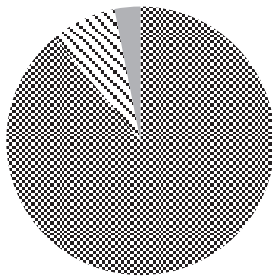
- ※ 入学前から知っている
- ※ 入学後知った
- 知らない

やっこさん



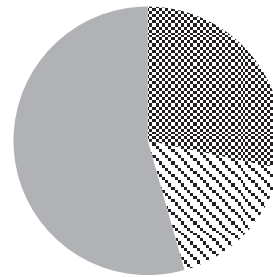
- ※ 入学前から折れる
- ※ 入学後折れるようになった
- 折れない

かぶと



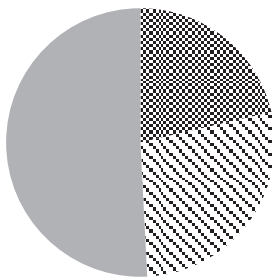
- ※ 入学前から知っている
- ※ 入学後知った
- 知らない

かぶと



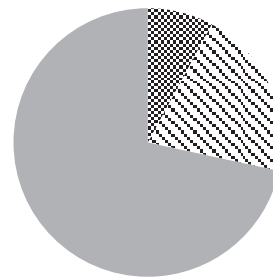
- ※ 入学前から折れる
- ※ 入学後折れるようになった
- 折れない

鯉

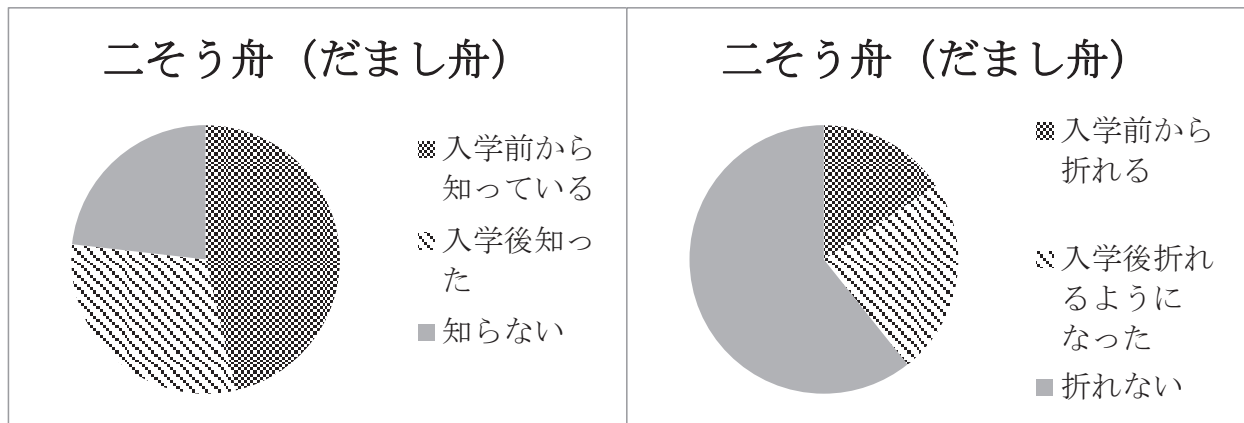


- ※ 入学前から知っている
- ※ 入学後知った
- 知らない

鯉



- ※ 入学前から折れる
- ※ 入学後折れるようになった
- 折れない



鶴、風船、やっこさん、かぶとの認知度は高いものの、鶴以外に図を見ず折れる作品は多くないことが分った。鶴についてはほとんどといっていい学生が知っており、入学以前から図を見ず折れる学生が全体の8割以上であるのに比べ、風船、やっこさん、かぶとについては、知っているとは回答した学生はいずれも127名中100名を超えるものの、入学以前から図を見ず折れると答えた学生は、半数にも満たないという結果である。二そう舟と鯉の認知度は低く、二そう舟の認知度は45.6%、鯉は最も低く、21.2%であった。

②他の折り図を見ずに折れる作品

多くあげられていたのは、花やりボン、「コトン・コン」等の作品である。自身が実習や授業の中で数多く作る機会があったので覚えているという理由が多かった。

③実習における折り紙の必要性等に関する考え

保育実習や幼稚園教育実習に行く前に、保育技術として折り紙を習得しておくことが必要であるとする意見が多数あった。代表的な理由として、「保育実習で子どもが本を持ってきて、教えて欲しいと頼まれることがよくあった」「装飾に使う」等があった。保育者には折り紙の「折り図を理解する力」、「折る技術」、「すぐに折れるレパートリー」が必要であるという声が上がっていた。また、文化の伝達という意味から伝承折り紙を習得しておくようにと、実習先の保育者から勧められたという記述もあった。

5. 考察と今後の課題

今回は特定の大学に在籍する学生についての調査ではあるが、現代の保育学生の伝承折り紙の認知度についてある程度把握することができたといえるのではないだろうか。この結果から、学生は入学以前に伝承折り紙を見たり折ったりしたことはあっても、鶴以外は折り図を見ずに折ることができない者が多数である現状が明らかになった。これまで筆者が学生に作品を紹介する際に、ざぶとん基本形を「これはやっこさんの折り方から始めます」等と伝えても一部の学生には伝わりにくい様子が見られた。基本形を習得していくためには、まずは基礎的な伝承折り紙から指導していく必要があると考える。

授業計画としては、15回の授業の冒頭15分程度を使い、毎回1作品ずつ折り方指導をしていく。幼児に折りやすい肩掛け基本形スタートの作品から、かぶと、鶴、鯉、そして折り基本形スタートの作品へ、風船、二そう舟、奴さんの順に幼児に向けた説明例を示しながら指導していく。6つの伝承作品を折った次の回には、基本形を使った別の作品を折るようにする。例えば鶴を折った後、復習として正方基本形まで折り、そこから「おさるの木登り」を折る、

といったように進めていく。

折り紙を授業で体系的に取り入れていくとすれば、テキスト化が必須である。大妻女子大学では「子ども文化特講」の講義に合わせたテキストを、学生向けに独自に編集し出版している。伝承折り紙による基本形からその応用作品、作品を活用した遊びの展開方法へと順序だてて示したものである。学生の実践報告も併せて掲載されている。養成校における学生指導には、単に折り紙が折れるということではなく、保育での展開方法や幼児への指導法を熟知した担当者の確保が必要となる。折り紙を授業に取り入れようとするれば、現状ではそのような教員確保も課題となるが、このようなテキスト化によってそれもある程度可能になると考えられる。また、学生の現状として、多くの学生は実習や課題に使いたい作品をその都度動画で検索し、折っている様子が見られる。折り図を理解する力も必要であるが、幼児に伝える言葉を添えたテキスト動画の活用等も併せて検討すべきであろう。

今回の結果を基にして、今後は学生に伝承折り紙、基本形を習得するよう指導していく。そのことにより構造理解やレパートリーの増加につながったかの検証が必要である。また、旧来の基本形の折り順とは別に、幼児、高齢者にも折りやすい折り順がある。そうした方法や幼児に合わせたわかりやすい言葉での指導法を、全国の保育者や学生にどのように広めていくのが今後の研究課題であると考ええる。

文献

- [1] 田中陽子、後藤千鶴子「保育者養成における折り紙指導の体系化」(Ⅰ) 日本保育学会大会研究論文集 (41) (1988)
- [2] 田中陽子、後藤千鶴子「保育者養成における折り紙指導の体系化 (Ⅱ)」 日本保育学会大会研究論文集 (42) (1989)
- [3] 田中陽子、後藤千鶴子「保育者養成における折り紙指導の体系化 (Ⅲ)」 日本保育学会大会研究論文集 (43) (1990)
- [4] 後藤千鶴子、田中陽子「保育者養成における折り紙指導の体系化 (Ⅳ)」 日本保育学会大会研究論文集 (44) (1991)
- [5] 田中陽子、後藤千鶴子「保育者養成における折り紙指導の体系化 (Ⅴ)」 日本保育学会大会研究論文集 (44) (1991)
- [6] 田中陽子「保育者養成における折り紙指導の体系化 (Ⅷ)」 日本保育学会大会研究論文集 (47) (1994)
- [7] 田中陽子「保育者養成における折り紙指導の体系化 (Ⅸ)」 日本保育学会大会研究論文集 (50) (1997)
- [8] 福井晴子「折り紙遊びの歴史的側面と幼児教育における現代的意味」 保育学研究 (41) 日本保育学会 (2003)
- [9] 五十嵐裕子「折り紙の歴史と保育教材としての折り紙に関する一考察」 浦和大学・浦和短期大学部『浦和論叢』 (46) (20012)
- [10] 大森隆子「遊戯折り紙研究考 (2) —遊戯折り紙の教育的価値について—」 椙山女学園大学教育学部紀要 (3) (2010)
- [11] 日本折紙協会編『おりがみ4か国語テキスト』 日本折紙協会 (2010)

- [12] 中村圭吾・中村輝美編著『伝承と創作の技を知る 折り紙基本マスター・紙からくりマスター』現代図書 (2010)
- [13] 大森隆子「遊戯折り紙研究考 (4) 一わが国幼稚園創設期の折り紙教育について一」椋山女学園大学教育学部紀要 (5) (2012)
- [14] 梨本竜子「保育者養成における『折り紙』指導の必要性についての一考察 一実習時における経験に関する学生アンケートを基にして一」新潟青陵大学短期大学部研究報告第 45 号 (2015)